

居場所論の「現在」

日時 2016年12月3日(土)13:30~18:00

場所 上智大学四谷キャンパス 上智紀尾井坂ビル-B210
(JR四ツ谷駅徒歩10分)

http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/map/map_yotsuya

主催 上智大学総合人間科学部教育学科
(教育イノベーション・プログラム)

参加費 500円(資料・お茶代)

*上智大学学生・院生・教職員は無料



「居場所」という日常的な用語が政策文書に登場したのは、1992年に文部省から出された不登校対策の報告書でした。その後、居場所に関する書物は増加し、心理学、教育学、社会学などの学術書にも登場するようになります。居場所論が広がる背景には、経済や情報のグローバル化が急速に深まりをみせるなかで、家族・地域・会社・国といった従来、人々に安心と安全を保障してきた集団や組織によるセーフティネットが縮小し、人々を孤立化させていることが原因であると思われます。

居場所づくりは実践や政策においても、子どもの貧困、災害復興、高齢者の地域参加などにおいて、鍵となる概念になりつつあります。また、欧米での移民問題やアジア諸国でのテロ問題でも、若者の居場所が注目されています。この度さまざまな分野で居場所論を研究し、居場所づくりの実践に携わっている皆さまにお集まりいただき、交流する場として本フォーラムを企画いたしました。皆さまのご参加を期待しています。



<プログラム>

趣旨説明 田中治彦(上智大学総合人間科学部)

第I部 日本の子ども・若者と「居場所」

コーディネーター 阿比留久美(早稲田大学)

報告1 千代田区に貧困家庭の子どものための居場所を作りました-NPO法人MLT子どもプロジェクトの現状と課題
久田満(上智大学総合人間科学部)

報告2 支援としての「居場所」を考える
—〈承認する/教育する〉のジレンマ
御旅屋達(東京大学社会科学研究所)

報告3 「いつでも・誰でも・無料で」来られる居場所づくり—冒険遊び場の実践からの学び
森川和加子(せたがや子ども・ワカモノねっと)

第II部 グローバリゼーションと「居場所づくり」

コーディネーター 萩原建次郎(駒沢大学)

報告4 ダッカでのテロ事件と若者の居場所づくり
筒井哲朗(一般社団法人シェア・ザ・プラネット)

報告5 トランスナショナル状況下の欧州ムスリム移民の居場所づくり
丸山英樹(上智大学グローバル教育センター)

報告6 居場所とゆとり——社会変動論的視座から
塩原良和(慶応義塾大学法学部)

(終了後、同会場で懇親会をもちます。ふるってご参加ください)

お申込みとお問合せ

田中治彦研究室 ibasho.sophia@gmail.com

Fax 03-3238-3654

<タイムテーブル>

13:00 開場

13:30-13:50 **趣旨説明** 田中治彦（上智大学総合人間科学部、生涯教育学）

第Ⅰ部 日本の子ども・若者と「居場所」

コーディネーター 阿比留久美（早稲田大学）

13:50-14:20 報告1 千代田区に貧困家庭の子どものための居場所を作りました

—NPO 法人 MLT こどもプロジェクトの現状と課題

久田満（上智大学総合人間科学部）

14:20-14:50 報告2 支援としての「居場所」を考える—〈承認する／教育する〉のジレンマ

御旅屋達（東京大学社会科学研究所）

14:50-15:20 報告3 「いつでも・誰でも・無料で」来られる居場所づくり

—冒険遊び場の実践からの学び

森川和加子（せたがや子ども・ワカモノねっと）

15:20-15:40 質疑と議論

第Ⅱ部 グローバリゼーションと「居場所づくり」

コーディネーター 萩原建次郎（駒沢大学）

16:00-16:10 課題の整理

16:10-16:40 報告4 ダッカでのテロ事件と若者の居場所づくり

筒井哲朗（一般社団法人シェア・ザ・プラネット）

16:40-17:10 報告5 トランスナショナル状況下の欧州ムスリム移民の居場所づくり

丸山英樹（上智大学グローバル教育センター）

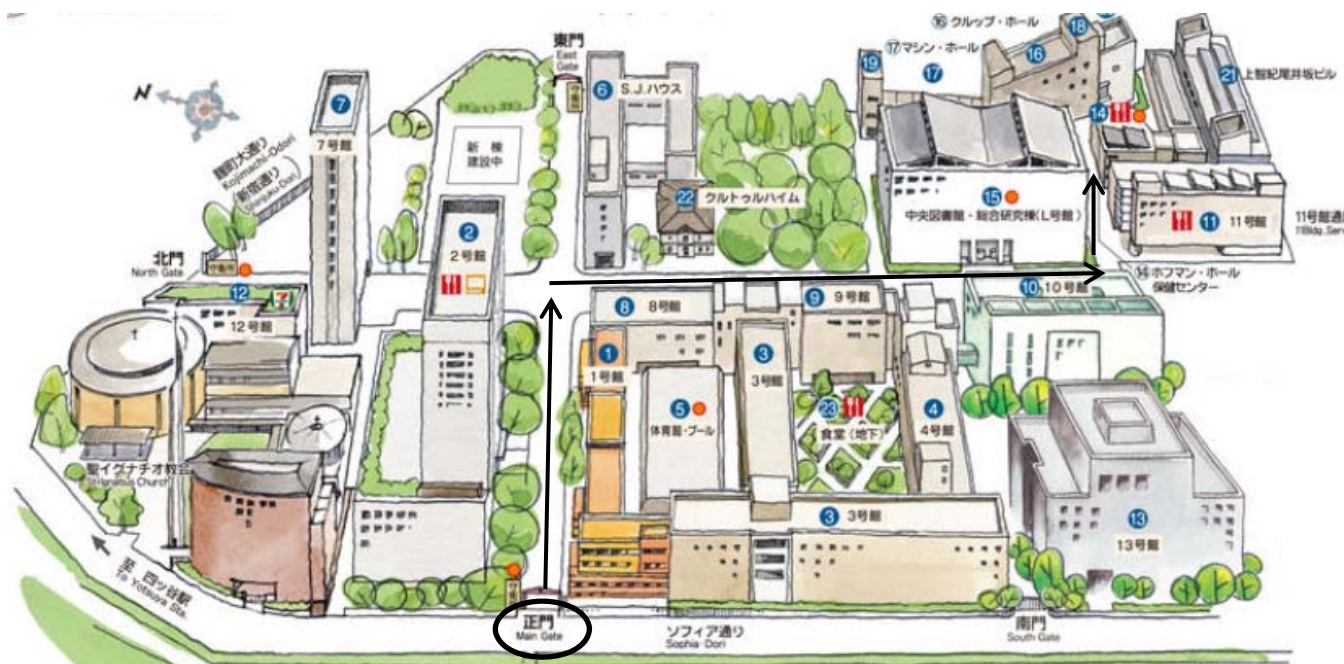
17:10-17:40 報告6 居場所とゆとり——社会変動論的視座から

塩原良和（慶応義塾大学法学部）

17:40-18:00 質疑と議論

（終了後、同会場で懇親会をもちます。ふるってご参加ください。）

<会場アクセス>



※当日は、大学構内には正門よりお入りください。